

宇都宮市立宝木小学校（第４・５学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・対話や協働的な学びを取り入れた授業実践に努め、児童が積極的に自分の考えを伝え合い、ともに学び合える学級集団の育成を目指す。導入や発問、ICTを活用するなど学習活動を工夫し、多様な方法での学び合いを実践していく。	・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対する肯定的回答の割合が8割を超えている。しかし、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に対する肯定的割合は6割で、昨年度より多くなっているものの、まだ県の平均を下回っている。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対する肯定的割合も県の平均を下回っており課題である。
・家庭学習の習慣化・継続化への手立てや取り組み方の提示	・学習がんばり週間を年2回設定し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を目指す。また、「陽西地域学校園学習の手引き」や「家庭学習の進め方」を活用して、家庭学習の質の向上に努める。	・「家で、自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する肯定的割合が、5年生では県と同等であるが4年生で県の平均を下回っている。「家で、学校の宿題をしている」の質問に対する肯定的割合は県と同等であるので、自分で計画を立てるという点に課題が見られる。また、家庭での学習時間では、学校が各学年で目標に掲げる時間を学習している児童の割合は県と同等であったが、1日の学習時間が30分より少ない、全くないと回答する割合が県より高いのが課題である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・話し合いに自分から進んで参加したり、話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが難しいと感じてる。また、自分の考えを文章にまとめて書くことに苦手意識をもっている。	・対話や協働的な学習を取り入れた授業実践に努め、児童が積極的に自分の考えを伝え合い、ともに学び合える学級集団の育成を目指す。	・学習課題を明確化し、児童が学び合える活動を工夫するとともに、学習を振り返る活動の内容や方法を工夫し、学習を通して何が身に付いたのか自覚することができるようにする。また、話し合い活動を効果的に取り入れ、相互に関連づけたり、共通点や相違点を見出したりできるように、教師の授業コーディネート力の向上を図る。また、授業の中に自分の考えを書かせる時間を意図的に設け、自分の考えを書く習慣を身に付けさせる。